

傘寿記念演奏会

高津 佳



Photo: Koshu ENDO

曲目

『啄木に寄せて歌える』越谷達之助作曲

上田敦子

『啄木短歌集』高田三郎作曲

高津佳

組歌『十勝線の旅10首』江尻栄作曲

独唱と二重唱

ほか

啄木

歌集『一握の砂』『悲しき玩具』より
なうたう

令和6年

開演 6月29日(土)
午後1時開場 12時30分

ザ・ルーテルホール

札幌市中央区大通西6丁目(大通南仲通り南向き)

自由席 一般 4,000円
学生 2,000円

小学生からご入場いただけます

上田敦子



ピアノ
大家純子



◆チケット取り扱い

道新プレイガイド/市民交流プラザチケットセンター ☎0570-00-3871

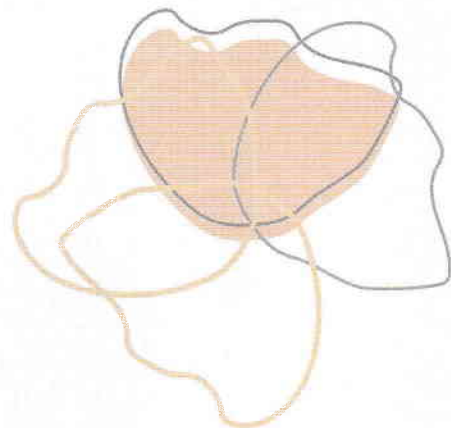
◆お問い合わせ：ミュージック・ギャラリー ☎011-211-1463

主催：高津佳・上田敦子演奏会実行委員会

後援：札幌市、札幌市教育委員会、北海道日本歌曲研究会
(一社)北海道二期会、札幌音楽家協議会

北海道にもゆかりのある歌人・石川啄木 26年の儚くも波乱の人生を駆ける

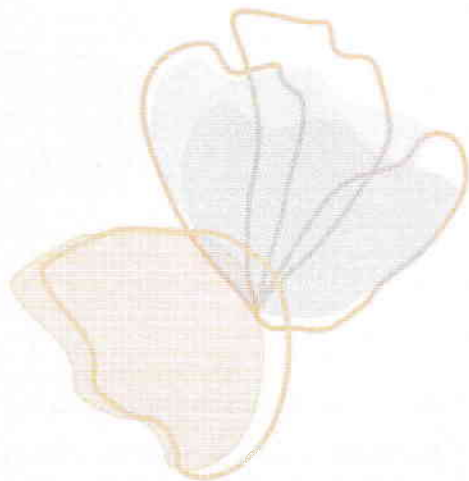
石川啄木(本名:石川一 いしかわはじめ)は1886(明治19)年岩手県のお寺の長男として生まれた。小さい頃から成績が良く「神童」と呼ばれ(宮沢賢治も同学校出身、啄木の後輩)中学時代、金田一京助や文学誌に出会ったことで歌に目覚め才能が開花する。16歳で上京し文学を生業にしようとするものの19歳で結婚。家族と暮らすため盛岡で小学校の代用教員になる。1907年に北海道函館で代用教員の生活を始めるが、まもなく新聞記者として単身札幌、釧路などを転々とする。先々で多くの歌(『一握の砂』掲載)が生まれた。中央文壇への思いにより1年足らずで北海道での生活は終わる。東京では小説家を目指す失敗。かねてからの奔放な生活ぶりはお金と家族関係を悪化させる。目まぐるしい生活環境の変化が続く啄木だが、新聞の校正係になり1910年に刊行した初の歌集『一握の砂』により歌人としての名声を得る。幸徳事件で社会主義への関心から文学評論を執筆。問題の多い私生活は沢山の友人たちの助けで賄われていたが困窮。結核により1912年満26歳の若さで没す。没後に第2歌集『悲しき玩具』が出版される。



高津 佳 (たかつ けい)

群馬県高崎市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒。幼少期にラジオ東京(現・TBSラジオ)『こども音楽コンクール』、NHK『声くらべ腕くらべ子供音楽会』出場。その後NHKラジオ『歌の本』にて童謡などをうたう。成長と共に日本の歌に強い関心を持ち、研究を続ける。神奈川県川崎市『川崎童謡の会』のレギュラー講師を20年以上にわたり務めた他、全国各地の歌手との日本の歌によるジョイントコンサートも回数を重ねている。これまでにソロCD『見果てぬ夢 こころの歌』、『巡逢〜心から心へ〜』などを発表。「懐かしさと優しさにあふれた歌声」による日本の抒情的ポピュラーソングの数々は、NHK-FMの『小原孝・弾き語りフォーユー』などで度々放送され、好評を得ている。また、放送表現教育センターに所属し、朗読の分野においても活躍。

本名の塚田佳男としては、75年から77年までドイツ・デトモルトにてピアノ、オルガン、伴奏法を学び、帰国後から現在に至るまで歌を知りぬいた繊細な音楽性で、特に日本歌曲の研究・解釈・伴奏においては現在日本の第一人者としての活動を続けている。



上田 敦子

夕張市出身。上野学園大学声楽科卒業。北海道二期会オペラ「泥棒とオールドミス」「ヘンゼルとグレーテル」「フィガロの結婚」「魔笛」「カルメン」他多数出演。また「ミサ曲短調」「ヨハネ受難曲」「メサイア」「レクイエム(モーツァルト、フォーレ)」「戴冠ミサ曲」「第九」「カルミナ・ブラーナ」等、多くの合唱団のソリストとして出演。1986年にはアルド・プロッチェと「椿姫」2幕を二重唱し好評を博す。近年は日本歌曲の素晴らしさに魅せられリサイタルも日本歌曲を中心に行っている。2014年銀座王子ホール、2017年白寿ホールでの塚田佳男氏とのリサイタルは好評であった。2015年にデビュー50周年記念CD「歌をください」をリリース。2020年、2枚目CD「恋ふるうた」は『レコード芸術』9月号に取り上げられ、これら芸術歌曲を格調高く歌っていると好評を得た。

札幌市新人演奏会奨励賞受賞、2012年奏楽堂日本歌曲コンクール第23回歌唱部門入選。北海道二期会、札幌音楽家協議会、北海道日本歌曲研究会各会員。

大家 純子 ピアノ

静岡県出身。国立音楽大学ピアノ専攻卒業後、モーツァルトウム音楽院(ザルツブルグ)に学ぶ。これまでにソロ、室内楽、伴奏ピアニストとして多数のリサイタル、コンサートに出演。CD録音にも参加。中でも長年傾倒してきた歌曲の分野では多くの声楽家と共演、マスタークラスでの公式ピアニストも務める。2017年よりコンサートシリーズ「一時間のクラシック」を継続中。Vol.5朗読劇イノック・アーデン(A.L. テニスン原作/R. シュトラウス作曲)では、オリジナルの日本語訳台本も手がけた。女声合唱団リラ、アンサンブル煌、各常任ピアニスト。岩内在住。